

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhg@extra.ocn.ne.jp URL: <http://blrhg.org/>



所長の諏訪山だより

きよしこの夜は、いつの夜なのか

11月下旬になると、京都の南座に顔見世興行の「まねき」があがり、もうすぐ師走かと、気ぜわしい気分になります。そうこうしていると、12月13日、京舞井上流の井上八千代さんのお宅に祇園の芸子舞妓が年始のあいさつに訪れる様子が夕刊各紙に掲載され、「せわしないなあ」と言っているうちに、クリスマス・イブです。本当に1年は、あっという間に過ぎて行きます。

ところで、クリスマス・イブはクリスマスの前日だから、「イブ」は祇園祭の宵山の「宵」のように、「本祭り」の前夜という意味と理解している人が多いですが、クリスマス・イブ(Christmas Eve)の「eve」は、「夕、晩」を意味する古語「even」の短縮形で、要するに「evening」ということです。つまり、クリスマス・イブはクリスマスの晩で、クリスマスの前日ではないのです。

旧約聖書の創世記では、まず神が天と地を創造し、光と闇を分けたと書かれています。これが第1日目で、つづいて神は、海と陸地、太陽と月、植物、生き物と、さまざまなものを創り、6日間ですべてを完成させ、7日目に安息をとったとされています。

ここで興味深いのは、1日の数え方です。旧約聖書では、「夕となり、朝となった。第〇日目である」という記述が第1日から第6日までつづきます。「朝となり、夕となった」ではなく、旧約聖書では日没から1日が始まるのです。たとえば、日曜日は、その日の午前0時からでも、また日の出からでもなく、前日の土曜日の日没から始まるので、土曜日の日没は、もう日曜日で、翌日の日没で日曜日は終わり、月曜日が始まるのです。したがって、クリスマスは12月24日の日没から始まりますので、24日の晩がクリスマスのイブニング(夕、晩)であって、25日の晩は、もうクリスマスではないのです。

ユダヤ教では、安息日に働いてはならないことになっていますが、その安息日というのは、天地創造の7日目なので、1日目(週の初めの日曜日)として数えると、金曜日の日没で6日目が終わります。つまり、7日目の安息日は金曜日の日没から土曜日の日没までとなるのです。この日、一部の改革派を除くユダヤ教徒はいっさい働かず、イスラエルではバスや鉄道などの公共交通機関も営業しない都市や地域が多いのです。食事もつくることはしないので、安息日の食事は金曜日の日没までにつくっておくそうです。

クリスマス・イブは、クリスマスの前日ではなく、クリスマス当日だったのです。では、みなさま、よいお年をお迎えください。

所長 石元清英



『ただいま、ダルセーニョ』

朴玲華(パク・リョンファ)作、2018年1月、1200円

先日、龍谷大学で「京都朝鮮第一初級学校襲撃事件」10年を機に集会があった。筆者は在特会による校門前での暴力的な行為をネットで見たときの衝撃と、経験したことのない体の震えを、今も忘れることができない。

あれから10年——集会では事件当時初級学校に通っていた小学生(現在は大学生)や保護者の体験、支援する人々の思いが語られた。不安なことも、辛いことも、悔しいこともまだまだたくさんあるけれど、このつながりがなによりも大きな力になる。そう実感して、胸が熱くなった。

集会の書籍販売コーナーで、朝鮮学校の卒業生が描いたというこの漫画に出会った。「ダルセーニョって、なんだろう?」と思いながら手にとると、最後の一冊だと言われ、あわてて購入。京都朝鮮中高級学校の吹奏楽部を舞台に物語は紡がれている。

鄭未来(チョン・ミレ)は吹奏楽部でテナーサクソを担当している14歳。生徒数が少ないため、部活は中高合同。高校生の先輩達に混じって演奏するのは少し緊張するけれど、パートリーダーとして後輩達をひっぱりながら頑張っている。

ある日、吹奏楽部ではコンクールに向けた会議が開かれる。金賞をめざして少数精鋭で出場するか、リスクはあっても部員みんなで出場するか——。ミレが淡い恋心を抱く高校生の先輩が熱く語る。「金賞をとって、在日同胞の期待に応え、民族教育を守ってくれた同胞に感謝の気持ちを伝えたい」。大好きな先輩の、感動的であるはずの意見を聞きながら、妙にさめた自分に気づくミレ。朝鮮学校の生徒である以上、背負わなければならないものがある。でも、それだけで本当にいいの——。

正直、本を開くとき、筆者には偏見があった。朝鮮学校を描いた漫画だから、この先輩のように、在日としてのアイデンティティをしっかりとって日本社会で生きていく、ある種ステレオタイプの「優等生」の姿が描かれているのだろうな、と。だが、うれしいことにこの偏見はみごとに打ち砕かれることになる。

「ダルセーニョ」とは、音楽の反復記号のことで、記号のつけられた箇所に戻り、そこから繰り返すことをいうそう。部活動を通してミレは、在日コリアンの歴史とともに、現在の自分、さらには未来の自分に向き合っていく。反復記号のように、行ったり来たりを繰り返しながら、葛藤の果てに紡ぎ出されたミレの思いに、滂沱の涙。結論はぜひ本書を読み、味わっていただきたい。

この作品は、2018年東京都で開かれた同人誌即売会「コミティア」会場で、講談社が新人発掘のため開催した「即日新人賞」で優秀賞を受賞した。作者の朴玲華さんは講談社の雑誌『ITAN(休刊中)』44号に、高校生になったミレを描いた読み切りの続編で漫画家デビューを果たす(続編はネット版で購入可能)。ともあれ朝鮮学校の物語が商業誌で読めるなんて、個人的にはうれしい限りであるが、高校生になったミレが、ステレオタイプの生徒になってしまっていたのは、少し残念だった。(K)

(本書の購入は <https://bokureika.booth.pm/items/892339>)





『わたしで最後にして ナチスの障害者虐殺と優生思想』

藤井克徳著、合同出版、2018年9月、1500円＋税

本書は、2015年にNHKで放映された「それはホロコーストの“リハーサル”だった～障害者虐殺70年目の真実～」などの取材記録を収録したもので、著者は「きょうされん」（前身は共同作業所全国連絡会）専務理事、日本障害者協議会代表であり、自らも視覚障害をもつ藤井克徳さん。番組では案内人役を務めた。

ナチス・ドイツ時代におこなわれた障害者虐殺は「T4作戦」と呼ばれた。暗号めいたこの名前は、作戦本部が置かれたベルリンの地名「ティアガルテン（Tiergarten=動物園）通4番地」に由来する。ヒトラーの私的な用紙に書かれた署名入りの「承認書」がその根拠となった（日付はドイツがポーランドに侵攻した1939年9月1日）。

本部は最終的に400人、うち約50人を精神科医を中心とする医師が占め、その他看護師、化学や機械技術の専門家、事務職、運転手などで構成されたという。

ドイツ全土の病院や治療介護施設に登録用紙が配られ、医師や管理者が患者の情報を記入。返送された用紙を元に数人の医師が「安楽死」（殺害）施設に送るかどうかを判断した。本書には実際の登録用紙が掲載されている。内容が訳された別の本を見ると、病気に関するだけでなく、働けるかどうかも重要なポイントになっており「労働の価値」という言葉もある。説明書には報告すべき疾患など細かい指示が並ぶ。患者を守る行動をした医師や協力を拒んだ医師もいたが、大半の医師は登録用紙の意味を理解しつつ、黙って患者の情報を記入した。

リストアップされた障害者は国内6カ所に設置された殺害施設に送られ、ガス室などで殺され、そこで焼却された。ガス栓をひねり、死に至る様子を見届けていたのも医師だった。殺害前の段階で人体実験がおこなわれもしたし、おびただしい数の脳の標本も作られた。

殺害が始まったのは1940年1月。キリスト教会の抗議をきっかけに翌年8月に表向きは中止されたが、その後も続き（「T4作戦の野生化」）、多くの医療関係者が関与した。犠牲者数は作戦中に7万273人、「野生化」後13万人以上、総計20万人以上と推計されている。作戦中止後の1941年後半から絶滅収容所の建設やユダヤ人虐殺の作戦が本格化、T4作戦に関与した医師など少くないスタッフがアウシュヴィッツ・ビルケナウなどの絶滅収容所に移り、ノウハウも引き継がれた。

詳細を知れば知るほど、「ナチスによる障害者虐殺」という言葉は、本質を覆い隠してしまうものだと感じる。藤井さんは、T4作戦と、その前の断種（強制不妊）政策の共通点として「健全な社会は強い者・優れた者のみで構成すべき」という優生思想を指摘する。それはナチスの登場以前からドイツなど欧米はじめアジアにも広がりを見せていた、と。そして、第3章でドイツ、日本、アメリカ、スウェーデンなど各国でおこなわれた優生政策について説明し、優生思想に対峙するものとして、第4章に2006年に誕生した国連「障害者権利条約」を取りあげている。

第5章では「やまゆり園事件」（2016年）のことに触れられているが、2020年1月にはその公判が始まる。（T4作戦の根幹にある優生思想は）「決して過去の話ではありません。私たちの日本社会にも深く潜み、いまもときどき頭をもたげるのです」と藤井さんは書いているが、それとどう向き合っていくのか、自分自身の問題として改めて考えたいと思う。

本書は「中高生から」となっており、注釈も豊富で読みやすい。その分、情報量は多くないが、さらに知りたいと思う人のために、巻末3頁にわたって「参考になる本」が紹介されている。

なおT4作戦開始から70年後の2010年、ドイツ精神医学精神療法学会は公式に謝罪した。追悼式典での学会会長談話の日本語訳はネット上で読むことができるので、一読をお勧めする。(H)



会員・定期購読者の皆さま

2020年4月からの『ひょうご部落解放』及び会員等の規定変更について

日ごろより研究所の事業にご理解ご協力いただき、感謝申し上げます。昨今、消費税増税、印刷経費の高騰、通信費の値上げ、会員の減少等のため、研究所の運営状況は厳しさを増しております。つきましては、誠に恐縮ではございますが、2020年度より雑誌、セミナー等の規定を変更いたしたく存じます（詳細は以下の表をご覧ください）。何卒事情をお汲み取りのうえ、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

①『ひょうご部落解放』

	～2019年度（変更前）	2020年度～（変更後）
発行回数	年4号（6月、9月、12月、3月） ※うち1号は県研報告書	年3号（9月、3月、臨時） ※臨時号は県研報告書
頒価	700円	900円＋税
送料	60円	80円
定期購読料	700円×4＋送料→3,040円	900円×3＋消費税＋送料→3,210円

②人権セミナー

	～2019年度（変更前）	2020年度～（変更後）
一般	800円	1,000円
会員	500円	無料
定期購読・学生	500円	変更なし
賛助会員 （2020年度新設）		500円

※注意：参加費の割引は個人が会員等である場合のみ対象になります

③会員

	～2019年度（変更前）	2020年度～（変更後）
年会費	正会員 6,000円／特別会員 10,000円	変更なし
会員特典	『ひょうご部落解放』送付（年4冊）	『ひょうご部落解放』送付（年3冊）
	人権セミナーの参加費割引（800円を500円に）	人権セミナーの参加費無料
	雑誌バックナンバー、研究所発行書籍の割引等	変更なし
	HB通信の送信（希望者には郵送）	変更なし

③賛助会員（新設）

年会費	1,000円
会員特典	人権セミナーの参加費割引（1,000円を500円に）
	雑誌バックナンバー、研究所発行書籍の割引等
	HB通信の送信（希望者には郵送）

2019年度 第5回人権セミナー

シンポジウム 「部落の所在地を問うこと、伝えることがすべて差別なのか」

■日時：2020年1月25日（土）14：00～16：00 ■場所：のじぎく会館（201号室）

事務局から

- 喪中ハガキに混じって、年賀状を卒業するとのハガキが届く。「今年こそ会いたいね」と交わしながら、かなわなかった歳月。それでも年に一度、相手を思う時間が愛おしい。私はもうしばらく続けよう。（K）
- 年末、奨学金を完済。20年がかりだ。借り始めた頃、先行きの分からぬ時代と既に言われていたが、幸運に恵まれた。来年から返済分の金額を貯金にまわそう（たぶん）。（Ka）
- 後少しで今年も終わり。家では冬の休暇を全力で楽しみ、来年出勤した途端タイムカードをつける事を思い出す仕掛づくりを自分の机の上で模索中（Y）
- 師走に入ってペシャワール会の中村哲さんとスタッフ5人死亡のニュース。「すごい人がいるもんだ」と遠くから敬意を寄せ、念願かなって5月に講演を聴いたばかりだった。喪失感と悔しさで今もやりきれない。（H）